

# 復興に駆ける！

第 4 号  
平成25年6月11日発行  
岩手県立生涯学習推進  
センター

「社会教育指導員等研修講座」での事例発表より

## 唐丹地区生活応援センター（唐丹公民館） 所長 見世 健一 さん



事例発表していただいた、見世健一さん

釜石市の南部に位置する唐丹（とうに）町は、現在人口2千人余です。同町沿岸部はそのほとんどが漁村で、7つの地区うち6つが東日本大震災で被災しました。

「唐丹地区生活応援センター」は、生活応援センターのモデル事業として、平成18年度から業務を開始しました。それまでの、出張所の窓口業務と公民館の業務に加え、保健師と看護師が常駐し保健活動も行っている、県内でもめずらしい施設です。唐丹地区の、生涯学習の拠点として事業を主催するとともに、住民の自主サークル活動も応援しています。

「唐丹地区生活応援センター」の所在する場所も、東日本大震災により甚大な被害を被りましたが、地区住民の強い要望により、公民館活動を再開し、以下の震災からの復興に向けた取組を行っています。

- ・生活応援センターの特性を生かして、地域住民・震災被害者の方の健康に対するケアをしました。保健師・看護師と協力しながら、健康相談、健康講話、家庭訪問により健康を守るための活動や介護に関する取組を行いました。
- ・地域の子育て支援としては、子育てボランティアグループ「唐丹子育て応援団」が中心となり「ひまわり教室」を開催、子育てにやさしい地域環境づくりを目指しています。この「ひまわり教室」は、未就学児とその保護者が集まり、様々な体験活動や保健師の保健指導を通じて、親同士が悩みを語り合ったり、他の家庭の子どもの様子を見ることで育児の参考にしてもらう場です。参加した方からは、「とてもありがたく助かった」「一人では解決できない悩みが解決できた」「これからも、この地区で生きていく希望がわいた」などの声が聞かれたとのことでした。
- ・体験学習を通して趣味を広げる「生き生き学級」を開催し、唐丹地区の史跡や文化財を探訪しながら学ぶ講座も開催しました。これがきっかけで、「唐丹の歴史を語る会」が結成され、震災被害を語り継ぐための津波記念誌「千年後への伝言」の製作にいたりしました。

公民館活動としても、町内会や総合型スポーツクラブと連携した運動教室などの開催や、唐丹地区で活動するサークルが一堂に会し、成果を発表し交流を深め、次の活動へとつなげることを目的に「唐丹公民館まつり」を開催するなど、地域・住民の絆を深める活動にも力を入れてきました。

所長の見世健一さんは、「明るく元気な地域づくりを目指して、これからも地域の拠点として、住民によりそった活動をしていきたい」と、力強く語っていました。

### 連絡先

☎0193-55-2111  
釜石市唐丹町字小白浜61番